

## 第2章 五芸術大学FD意見交換会



平成23年度 美術学部専門教育科目 実技授業課程表 日本画専攻

月	月	火	水	木	金	週	1年次		2年次		3年次					4年次				
							1	2	1	2	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	1		植物写生	人体デッサン M	M	人物制作A (裸婦)					M	人体デッサン				M
	11	12	13	14	15	2	植物制作1	植物写生	80号					M	自由制作				M	
	18	19	20	21	22	3	F20号	植物制作						M	150号				M	
	25	26	27	28	29	4		50号						自由制作						
5	9	10	11	12	13	5	校外指導			版画研究		自由制作			材料研究 (箔・截金・裏打)					
	16	17	18	19	20	6	植物制作2					50~80号								
	23	24	25	26	27	7	F20号	絹絵植物制作												
6	30	31	1	2	3	8	木工実習	材料研究	模写制作											
	6	7	8	9	10	9		(箔・截金・裏打)			(国宝 扇面法華経)									
	13	14	15	16	17	10	剥製写生													
	20	21	22	23	24	11	合同デッサン	合同デッサンM	M	合同デッサン		M	合同デッサン							
	27	28	29	30	1	12	動物制作	人体デッサン M	デザイン基礎の研究	人物制作B M										
7	4	5	6	7	8	13	30号	人物と植物の組み合わせ			(コスチューム含)									
	11	12	13	14	15	14		80号			80号									
	18	19	20	21	22	15														

夏季休業

10	3	4	5	6	7	16	合同デッサン	合同デッサンM	(M) 立体造形の研究	合同デッサン		M	合同デッサン	卒業制作				
	10	11	12	13	14	17	風景制作	風景制作			風景制作 80号以上			M	小下図研究会			M
	17	18	19	20	21	18	30号	50号						M	人体デッサン (コスチューム含)			M
	24	25	26	27	28	19								卒業制作				
	31	1	/	/	/	20		古典絵画研究						150号				
11	7	8	9	10	11	21	人体デッサン M	(模写)	古美術研究旅行 (未定)									
	14	15	16	17	18	22	裸婦制作 M				自由制作							
	21	22	23	24	25	23	40号以上	人体デッサン M			80号以上							
	28	29	30	1	2	24		人物群像制作 M										
12	5	6	7	8	9	25	絹絵制作	80号										

冬季休業

1	4	5	6	26	絹絵制作	人物群像制作			古典と現代組合せ			卒業制作						
	10	11	12	13	27					80号以上								
	16	17	18	19	20	28	自画像制作	人物自由制作										
	23	24	25	26	27	29	40号~50号	80号										
2	30	31	1	2	3	30												

- ・4年間を通して段階的に技術、表現方法を学ぶ
- ・合同デッサンを行い表現の基本としての描写力を向上させる

平成23年度油画専攻カリキュラム

		4月				5月				6月				7月				10月				11月				12月				1月				2月								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32									
		4/5~ S	11~ 15	18~ 22	25~ 29	5/9~ 13	16~ 20	23~ 27	5/30 6~10	6/13~ 17	20~ 24	27~ 31	7/4~ 8	11~ 15	18~ 22	25~ 29	10/3~ 7	10~ 14	17~ 21	24~ 28	11/7~ 11	14~ 18	21~ 25	28~ 12/2	12/5~ 9	1/4~ 8	10~ 14	16~ 20	23~ 27	1/30~ 2/3	6~ 10	13~ 17										
基本となる 素地作り	学部1	A-1 全教員による 講義と課題 全体講評				A-2 木工 A-3 下地 白河				A-4 絵画組成 材料研究 白河				A-5 久保田 阿野 緑田				A-6 プレスコ 設楽				空間への旅行 A-7 山本 寺内 増田				A-8 小林				A-9 版画研究 倉地、井出、大崎				A-9 小林				ガイダンス 課題制作 全体講評				教務担当 1年 ・小林 ・倉地 ・大崎
	モデル	モデル2人				芸術2年 実技及び材料研究																モデル2人																				
可能性	学部2	講座1 久保田 講座2 小林				講座3 山本 講座4 寺内				講座5 設楽 講座6 阿野				講座7 倉地 講座8 井出				大作選考エス キース選考 【特別講義】 歌田真介 西村智弘				ガイダンス 課題制作 大作週間 立体造形の研究 介履実習				写真 講座 全体講評				講座9 飯田 講座10 増田				PC 講座 講座11 白河 講座12 大崎				小林講座 全体講評				2年 ・久保田 ・倉地 ・井出
	モデル	ガイダンス				芸術2年 実技及び材料研究																ガイダンス				ガイダンス				ガイダンス												
応用性	学部3	チュートリアル 3-A				文章で表 現する 小林				ガイダンス 課題制作 大作週間				全体講評				古美術 チュートリアル 3-B				ガイダンス 課題制作 大作週間				課題制作 大作週間				全体講評				3年 ・山本 ・阿野 ・増田								
	モデル	チュートリアル 3-A				芸術2年 実技及び材料研究																古美術				ガイダンス				ガイダンス												
作品の成立	学部4	卒制に向けての チュートリアル 4-A				卒業制作 提出 エッセイ				卒業制作 教育実習				資料館 展示 7/11~ 7/18				博物館実 習				卒業制作 卒制プレゼン				卒業制作 卒制プレゼン				卒制プレゼン 卒業制作				卒制プレゼン 卒業制作				4年 ・寺内 ・白河 ・大崎 ・教務 大崎				
	モデル	卒制に向けての チュートリアル 4-A				芸術2年 実技及び材料研究																博物館実習				卒業制作				卒業制作				卒業制作								
関連科目 (他専攻)	芸術学	版画研究 日本画、彫刻				芸術2年 実技及び材料研究																版画研究 日本画、彫刻				版画研究 日本画、彫刻				版画研究 日本画、彫刻				版画研究 日本画、彫刻				古美術 倉地 増田 井出 白河				
院1	院2	研究制作				各研究室による独自の研究(技法研究会含む) ゼミ、レクチャーなど				資料館 展示 6/23 ~6/30				研究制作				各研究室による独自の研究(技法研究会含む) ゼミ、レクチャーなど				研究制作				各研究室による独自の研究(技法研究会含む) ゼミ、レクチャーなど				研究制作				各研究室による独自の研究(技法研究会含む) ゼミ、レクチャーなど								
院1	院2	修了制作				各研究室による独自の研究(技法研究会含む) ゼミ、レクチャーなど				資料館 展示 6/10 ~6/17				修了制作				各研究室による独自の研究(技法研究会含む) ゼミ、レクチャーなど				修了制作				各研究室による独自の研究(技法研究会含む) ゼミ、レクチャーなど				修了制作				各研究室による独自の研究(技法研究会含む) ゼミ、レクチャーなど								

《平成23年度彫刻専攻授業日程表》

週	月	日	1		2		3		4		M1		M2		他専攻等	
			AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM		
1	4	1	彫刻実技 I A	学科	彫刻実技 II A	学科	彫刻実技 III A	創作 I	彫刻実技 IV A	作品制作	研究	美術総合研究 I	研究	美術総合研究 II		
2		木彫・神田・葉栗		塑造 II 今井・森北・竹内・杉浦		造形 I 土屋		作品制作		美術総合研究 I		美術総合研究 II				
3																
4		木工実習 (金曜・午後)		自由制作		版画研究					美術特別研究		美術特別研究			
5	5	5														
6																
7		塑造 I 森北・杉浦・亀淵	自由制作			造形 II 神田										
8						古美術研究・神田・松山										
9	6	9		選択授業												
10				木彫・大塚・葉栗												
11						デザイン基礎の研究										
12																
13	7	13	石膏取り		石彫・大塚・西脇											
14																
15		補講期間		補講期間		補講期間		補講期間		補講期間		補講期間				
16		大掃除	講義試験週間	大掃除	講義試験週間	大掃除	講義試験週間	大掃除	講義試験週間	大掃除	講義試験週間	大掃除	講義試験週間			
8/2(火)~8/30(金) 夏季休業期間																
17	9	17	彫刻実技 I B	学科	彫刻実技 II B	学科	彫刻実技 III B	創作 II	彫刻実技 IV B	作品制作	研究	美術総合研究 II	修了研究 (提出第30週)	美術総合研究 IV		
18		石彫・大塚・青山		テラコッタ・大塚・竹内・堀井		選択授業		作品制作		美術総合研究 II		修了研究 (提出第30週)	美術総合研究 IV			
19						木彫・大塚・葉栗		卒業研究を含む(提出第30週)	卒業研究を含む(提出第30週)		美術特別研究		美術特別研究			
20		木工実習 (金曜・午後)		自由制作		造形 III 土屋										
21	10	21		材料研究 神田												
22																
23		金属・今井・川口・成田	自由制作													
24					鑄造 森北・田中											
25	12	25														
26																
12/13(水)~17(日) 冬季休業期間																
26		1	26	金属	自由制作	鑄造	自由制作	選択授業	創作 II	作品制作	作品制作	研究	美術総合研究 II	修了研究 (提出第30週)	美術総合研究 IV	
27	樹脂・神田・清藤							卒業研究を含む(提出第30週)	卒業研究を含む(提出第30週)		美術特別研究		美術特別研究			
28																
29							素描及び色彩研究									
30	2	30			テラコッタ・大塚・竹内・堀井											
31		補講期間	大掃除	補講期間		補講期間	大掃除	補講期間	大掃除	補講期間	大掃除	補講期間	大掃除			
32		講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間	講義試験週間			
芸術学基礎実技・神田																

## 五芸術大学体育・文化交歓会に伴う

### FDに関する教員意見交換会の開催について

① 芸術学専攻

② 参考資料（本学教員のみ）

- ③ 本専攻は、芸術大学という環境を生かして、専門的な歴史・理論研究と基礎実技の習得との有機的な総合を目指し、また少人数制（学部定員各学年5名）という特徴を生かして、一年次からマン・ツー・マンの教育を行っている。特に基礎となる一・二年次では、基礎教育科目、外国語の学習に加えて、基礎実技Ⅰ・Ⅱとして、素描、油画、日本画、彫塑、写真、映像、古典技法などを総合的に学習し、芸術的・批評的感性を養うとともに、三・四年次で行う美術史・美術理論および文化財学の分野でのより高度な専門的教育のための、土台作りを行っている。

一年次の必修科目「芸術学総合研究Ⅰ」においては、特に前期を中心に、西洋美術史、日本美術史、美学、現代アート論、文化財学の学び方について、それぞれ専門の教員が、初心者向けのガイダンスを行っている。また後期には二・三年生とともに、学生による研究発表形式の授業を行い、一年次からこの種の活動に自主的に取り組むようにさせている。

基礎教育科目やそれに類する授業科目としては、「西洋美術史概説A・B」「日本美術史概説A・B」「現代アート論概説A・B」「美学A・B」「文化財学概説」を必修科目として設け、なるべく一・二年次のうちに履修するように指導し、二年次以上で行う各種「特講」「研究」授業のための準備・基礎としている。

一・二年次で行う「基礎実技Ⅰ・Ⅱ」では、三年次以上で行う専門的な研究をよりいっそう深めるための一助として、幅広い実技に接し、或る程度これを習熟することを目的としている。

## デザイン専攻基礎教育カリキュラムについて

愛知県立芸術大学美術学部 デザイン専攻の基礎課程は1年～2年前期までで専攻入学生全員が様々な分野の課題を一通り体験します。

中でも基礎課程を三つのステージにわけ、それぞれの目的にふさわしい授業内容をデザイン専攻教員全員さらに非常勤講師にも参加していただき分担しながら担当しています。

### 三つのステージ

#### 1年生前期

##### ①「基礎造形」

基礎造形／構成／工房実習／全教員 3w

基礎造形／構成／色の構成／主担当 GD 系教員 3w

基礎造形／構成／空間の構成／主担当 ED 系教員ほか 3w

基礎造形／構成／形の構成／主担当 PD 系教員ほか 3w

基礎造形／構成／時間の構成主担当 MD 系教員 3w

#### 1年生後期

##### ②「デザイン基礎 1」

デザインプロセス／遊具のデザイン／主担当 MD 系教員ほか 4w

デザインプロセス／立体造形の研究／主担当彫刻非常勤ほか 3w

デザインプロセス／身体とデザイン／主担当 PD 系教員ほか 3w

デザインプロセス／観察とデザイン／主担当 GD 系教員ほか 4w

#### 2年生前期

##### ③「デザイン基礎 2」

情報とかたち 1／無形のデザイン／MD 担当+非常勤 3w

情報とかたち 2／ユニバーサルデザイン／PD 担当+非常勤 3w

情報とかたち 3／ダイアグラム／GD 担当+非常勤 3w

情報とかたち 4／個の空間／ED 担当+非常勤 3w

科目区分		授業方法	実習
授業科目	デザイン実技 I		
担当教員	デザイン専攻教員		
開講時期	2011年度 前期～後期	授業時間	前期(実習)、後期(実習)
対象年次(以上)	1	単位数	12
授業目的・到達目標	<p><b>基礎課程</b></p> <p>1年次と2年次前期までを、一連の基礎課程と捉え、専門領域の区別なくデザインを学ぶ学生が共通して身につけておくべき内容が学習出来るようになっている。</p> <p>基礎課程は大きく3つのステージ「基礎造形」、「デザイン基礎1」、「デザイン基礎2」となっており、デザイン実技 I は、この内の「基礎造形」、「デザイン基礎1」に相当する。</p> <p><b>基礎造形「構成」</b></p> <p>ベーシックな造形訓練と、造形の歴史的な理解が演習を通じて把握出来るようなプログラムを目指し、専門課程に進んだ時にオリジナリティの高い創造的なデザインが展開出来るよう、表現の後ろ盾としてほしい。また、模写模刻等も積極的に導入する。実制作の厳しさと楽しさを実感する。</p> <p>全体は4つの課題と工房実習をそれぞれ3週間づつで行う。4つの課題は共通して「構成」という視点から造形力の向上を図るとともに、造形の意味や歴史的背景が学習出来るようになっている。</p> <p><b>デザイン基礎1「デザインプロセス」</b></p> <p>デザインの結果だけを見ず、プロセスとして理解すること。デザインに取り組む際に、まずかたちのスタディから始めるのではなく解決したい問題に正しく向き合う為の手順＝プロセスについて考える姿勢を学ぶ。しかし、デザインの進め方は取り組むテーマや条件によって異なるし、デザイナーによっても異なるものである。ここでは、全体を「デザインプロセス」という視点に、4つの課題からアプローチしている。</p> <p>デザインに取り組む一般的な手順を学ぶとともに、デザインに自分なりにアプローチし、進めて行く為の姿勢が学べるようになっている。</p> <p>先人の得た知識と経験の蓄積を学ぶ一方で、プロセス自体も「デザインする」という視点も学んでほしい。</p>		
	<p>■基礎造形(構成)</p> <p>●1-3週 工房実習(柴崎) 木工・金工・印刷工房を使えるようになる為のスキルを身につける。 詳細は「工房実習 I」を参照のこと。</p> <p>●4-6週 色の構成(白木) 色の発達 デザインは、暮らしのものづくり。それは、暮らしを観察するところから始まる。 花の色、野菜の色、土の色、街の色、車の色、家具の色、暮らしのすべてのものに色がある。 色彩の研究は、すべてのデザインの基本である。ここでは、身の回りの色を採取して、市販の絵の具を使わない色彩作品に取り組む。その成果として色の概念や効果を再発見、再認識することができる。</p> <p>●7-9週 空間の構成(水津) 1年生諸君にとっては、絵を描くという表現行為は自由にあふれる想像力を自分の外に取り出す最も身近で慣れ親しんだ方法であろう。「見て描く」「頭に浮かんだものを描く」は幼い頃から接する機会が多いのである程度熟達していると思う。この授業では、絵を描くことで培った表現能力を一步先に進めて、厚みや奥行きがあり、光による陰影が生じる「空間」に発展させ「絵画の空間化」を試みる。</p> <p>●10-12週 形の構成(野田) 私たちの身の回りにおける自然界の造形には外形、質感、構造、量感、均衡など形態の構成要因が潜在</p>		

授業内容・スケジュール

- 2年生後期 第1課題 17～21週「印刷による表現<G1>」  
主担当:白木彰、今尾泰三、佐藤直樹、山口博一(非常勤)

- 2年生後期 第2課題 22～26週「イラストレーション<G2>」  
主担当:白木彰、今尾泰三、佐藤直樹

- 2年生後期 第3課題 27～31週「エディトリアル・レイアウト<G3>」  
主担当:白木彰、今尾泰三、佐藤直樹

【デザイン実技II(後期) 選択課題 メディア領域】

近年はWEBサイトや携帯サイトなどが新しい媒体が発達し、従来の紙媒体やTVなどと共に多様な媒体についてトータルに相互に関連させて効果的な情報伝達を行うクロスメディア的な考え方が重要になってきています。

メディアデザイン領域では映像や紙媒体、空間、イベント、WEBサイトなど個々の媒体についてそれぞれの媒体の特性に合わせた最適な内容を考え、制作する技術や知識を学びます。そして多様な媒体をトータルに連動させるクロスメディア的な視点で考えて制作、研究をおこないます。

■授業計画・内容(デザイン実技II/後期)

- 2年生後期 第1課題 17～21週「ストーリーをつくる<M1>」  
主担当:石井晴雄、宮崎喜一(非常勤)、田島征三(非常勤)

- 2年生後期 第2課題 22～26週「情報デザイン基礎<M2>」フライヤー、ノベルティグッズをつくる。  
主担当:石井晴雄、田端昌良(非常勤)、水谷みゆき(非常勤)

- 2年生後期 第3課題 27～31週「web デザイン (HTML.CSS)」  
主担当:石井晴雄、(非常勤)

【デザイン実技II(後期) 選択課題 プロダクト領域】

プロダクト領域の基礎となる課題群で構成されている。

具体的には造形基礎を学びながら発想したアイデアを定着させるための様々なスケッチ手法や模型制作技術等の表現技術の習得を行い、専門領域への入門としてのデザインの基礎を学ぶ。またモノづくりに欠かすことの出来ない「人間にとっての使いやすさ」や「素材の質感や特性を知る」ために人の触覚を使って研究するとともに専門的な知識や造形能力の向上をはかる。

- 2年生後期 第1課題 17～21週「立体表現技法演習<P1>」  
主担当:細川修、中島聡、清藤隆由(非常勤)、塚宣仁(非常勤)

- 2年生後期 第2課題 22～26週「玩具<P2>」  
主担当:細川修、山川雅美(非常勤)、中島啓之(非常勤)

- 2年生後期 第3課題 27～31週「動物園のデザイン」動物園をテーマとした“案内ガイド機器と檻(ブース)”のデザイン  
主担当:中島 聡、浅岡 洋(非常勤)

【デザイン実技II(後期) 選択課題 環境領域】

環境領域とは、空間の在り方を考え、計画し、表現するデザイン領域である。空間はいわば器のようなもので、それだけで独立した概念や、魅力的な視覚性や様式性を持っている。また、器はその内に、さまざまなモノや生活行為やコミュニケーションを内包することによって「環境」となる。この領域のプログラムは、空間をデザインするということは、最終的に「環境」をデザインすることを理想とすべきであるという考えから、空間を環境としてトータルに考えることのできる柔軟なデザイナー育成を目指して構成されている。具体的には、家具から始まり、インテリア、展示、建築と拮がり、建物の外構や公園などのランドスケープ、道路や橋梁などのシビックデザイン、地域計画と、次第に大きくなってゆくスケールのなかで出会うさまざまな環境を創るデザイン分野を体験学習する。

- 2年生後期 第1課題 17～21週「椅子のデザインと制作<E1>」  
主担当:長谷高史、広野照之(非常勤)

- 2年生後期 第2課題 22～26週「巨匠に学ぶ<E2>」  
主担当:野田理吉、非常勤講師

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2年生後期 第3課題 27～31週「パブリックデザイン&lt;E3&gt;」</li> </ul> 主担当:長谷高史、平松早苗
受講のルール	
使用教科書・参考書	課題ごとに適宜指示する。
評価方法	評価割合 出席を含むプロセス評価点50% 最終提出作品50%
留意事項	特になし。

科目区分		授業方法	実習
授業科目	デザイン実技II		
担当教員	デザイン専攻教員		
開講時期	2011年度 前期～後期	授業時間	前期(実習)、後期(実習)
対象年次(以上)	2 - 2	単位数	12 A6単位 + B6単位
授業目的・到達目標	<p>基礎課程 1年次と2年次前期までを、一連の基礎課程と捉え、専門領域の区別なくデザインを学ぶ学生が共通して身につけておくべき内容が学習出来るようになっている。 基礎課程は大きく3つのステージ「基礎造形」、「デザイン基礎1」、「デザイン基礎2」となっており、デザイン実技IIは、下記の「デザイン基礎2」「領域毎の課題選択課題」に相当する。</p>		
	<p>■デザイン基礎2(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●1～3週 情報とかたち1 無形のデザイン(石井) 人の感情や知的刺激を喚起するものを全てメディアとして捉え、その人の感情や知的刺激を喚起する無形な行為や、環境を創造する。具体的には愛知芸術大学のキャンパス内の校舎や自然環境を生かして、様々な造形や身体表現、空間、時間を伴う表現コミュニケーション提案する。</li> <li>●4～6週 情報とかたち2 ユニバーサルデザイン(中島) 誰もいない空間に、デザインは存在しない。デザインは常に人とかがわり、「美しい・使いやすい・解りやすい」などの感情発生が最終目標であり、制作物自体はそのための手段の一つである。この課題では「身体や心理の変化とデザインのかがり」をテーマに、人の身体や心理の多様性と変化を学び、それらを背景に日常生活に「必要な」提案とその具体化のプロセスを学ぶ。</li> <li>●7～9週 情報とかたち3 ダイアグラム(佐藤) 情報を解析、理解し、それを「図」にすることによって視覚伝達する「ダイアグラム」の概念と表現を学ぶ。 ヒトのコミュニケーション方法はさまざまにあるが、情報を「図化」して表現、伝達しようとする試みが絵画的表現を生んだ。書く、描く、画くことによって情報を伝達する研究と提案をおこなうことにより、ヴィジュアルコミュニケーションの概念と技法を体験し修得することができる</li> <li>●10～12週 情報とかたち4 個の空間(水津) 空間はどのように生まれるのだろうか。床に線を引くと向こう側とこちら側が生ずる。棒を立てるとその周辺が生ずる。太陽の光を遮ると日向と日陰が生ずる。空間はX,Y,Zでは語りきれない。この課題では、ひとりの人間が専有する空間単位に的を絞り、空間の生成とデザインの過程について学ぶ</li> <li>●13週 学外研究</li> <li>●14週～15週 セルフポートレート(学習プランの決定)(柴崎) 2年前期をもって、デザイン実技の基礎教育が終了し、後期からは様々な専門領域に対応した選択課題のカリキュラムが始まる。ここでは、基礎課程の振り返りを行ない、各自が自分自身を総括する(セルフポートレート)。そして、2年後期以降の学習プランを、教員と相談しながら立ててゆく。</li> </ul> <p>■17週～31週(後期) 選択課題 ※後期からは各領域の選択課題別となる。</p> <p>【デザイン実技II(後期) 選択課題 視覚伝達領域】 視覚伝達デザインは、50年代初頭にウルム造形大学でオトル・アイヒャーらの理論と実践により、その概念と方向がはっきり打ち出され今日でもその体系と概念は継続されている。特に昨今では、テレビ、映像、Webのメディアも視覚伝達デザインの視点から包括的にとらえられている。 本学デザイン専攻の視覚伝達デザイン領域は、視覚をとおして感情に訴え、理解と感動を媒介して情報伝達を目的としている。写真、映像、動画、Webのメディアもヴィジュアル・コミュニケーションとして視覚デザイン領域と考える傾向もあるが、本領域では印刷技術(プリント、版画)を介した平面作品を中心に、絵画作品、立体イラストレーション、編集デザイン(絵本を含む)、パッケージデザイン、広告、視覚言語、サインデザイン、公共デザインなどを主としたグラフィック・デザイン領域を設定している。</p> <p>■授業計画・内容(デザイン実技II/後期)</p>		

<p>授業内容・スケジュール</p>	<p>している。造形のヒントを探る。また、具体的作品制作は糸や檜棒材を使用し、「橋」をテーマに構造を重視した造形訓練を行なう。</p> <p>●13-15週 時間の構成(石井)</p> <p>●17-20週 遊具のデザイン(柴崎) 幼稚園児のための遊具制作 幼稚園児を対象とした遊具を、ダンボール素材を使用してグループにて制作する。 園児を大学に招き、自分たちのデザインした遊具を体験してもらう事を企画する。 また、この成果を大学内にて、発表・展示を行う。 この課題は、グループにより、まず幼稚園のリサーチを通じ、コンセプトメイキングを行う。 グループでのデザインの進め方や、デザインの達成目標を共有すること、またコンセプトに対して出てきた複数の案の中から実制作を行う案をどのようにして選択するかなど、グループでのデザインワークを修得する。また、選択した案を実施する為の構造、カラー、ソフト面、プレゼンテーションなど、総合的にみて、完成度の高いデザインワークを目指す。</p> <p>●21-23週 立体造形の研究(柴崎) 粘土による頭部塑像の制作を通して形の美しさに関心を持ち、対象を立体的に捉える方法を修得することができる。 詳細は「立体造形の研究(基礎塑像)」を参照のこと。</p> <p>●24-26週 身体とデザイン(中島) 人の体は長い進化の過程で機能と形態が有機的に変化し、美しい身体(デザイン)となっている。デザインは単に表面的な美しさのみを求める創作行為ではなく、対象者である人の特性を知り、より使いやすい・解りやすい・心地よい提案を行わなければならない。この課題では、先ず機能と形態・配置という視点から人体を観察・解析する。その後学んだ視点から日常生活を精査し、日常生活機器や用具を提案する。そのプロセスでは特に試作を重視し、提案内容を十分に検証する取り組みの大切さを学ぶ。</p> <p>●27-30週 観察とデザイン(今尾) すべての造形において重要な意味を持つ「観察力」。そしてそれを具現化する「描写力」。 これらの力はデザイン制作において欠く事の出来ない能力である。 この課題では様々な物を観察し、描写する事によってその力を養い、高め、それらを基にした作品試作を試みる課題である。</p>
<p>受講のルール</p>	
<p>使用教科書・参考書</p>	<p>課題ごとに適宜指示する。</p>
<p>評価方法</p>	<p>評価割合 出席を含むプロセス評価点50% 最終提出作品50%</p>
<p>留意事項</p>	

## ① 陶磁専攻

## ② カリキュラム

陶磁実技Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとして、3年からは陶芸と陶磁器デザインと別れて授業を行っている。別紙参照

そのほかに、陶磁原料学一週1時限（1～3年）、陶磁史（日本）一週1時限（1年）、陶磁史（中国・朝鮮・中近東・ヨーロッパ）（2年）、学外研究（隔年で中国研修旅行）、陶磁論一週1時限（3年）の授業と実技授業で非常勤約50名をお願いしている。

## ③教育概要と方針

現在本学は、永い歴史を持つ窯業地に立地した環境にあり、そこに存在している技法技術を基にした特色ある専攻を創るため、「用の美」ということを理念として教育をおこなっている。器を創るための技術技法を陶芸の基礎として、卒業までに修得することを第一義と考え授業を組み立てている。

陶芸コースでは、成形と絵付けを表現技法として身につけ、土から焼成まで一貫して個人で行うことを創作の基本と考え、最終的に作家として作品制作ができることを目標としている。

陶磁器デザインコースにおいては、地域のメーカー、工場などと積極的に関わりを持ち、制作の工程を理解し、また自身でも制作を行うことで、制作工程や粘土そのものから新たな発想を生み出すことを目標にしている。

1～2年次においては、描写・塑像等の造形基礎授業と、ロクロ成形・石膏型等を扱う陶磁器の基礎授業を陶磁器教育の導入として行っている。

3年次において陶芸・陶磁器デザインのコースを選択する。各コースにおいて創作をより高度なものに進めていくためには、ロクロ成形、石膏型による成型、加飾、焼成全ての面において習熟することが必要と考えている。技術と創作は表現のための両輪として指導している。学生個人にとっては、一つ一つの技法が身に付くにつれ表現の幅が広がり、陶磁器の科学的成り立ち、歴史など理解が進むにつれ、個性的表現に向かうものと考えている。

3年～院2年次においては、月1回程度個人面談を行い、制作の方向性、技術的アドバイスなどのきめ細かい対応をしている。また、焼成など共同で行うことで教育効果が期待できることに関しては共同で行うようにしている。その他、古窯研修、工場見学などを随時行っている。

学生にとって技法・技術を努力して習得することは、そこに達成感があり、そのことが個人の中で積み重なり将来に亘っても陶芸を続け、飛躍の時を迎えてくれることを期待している。

## ○陶磁実技 I

(授業の目的)

陶磁器制作における基本技術を学び、描写・造形力を鍛える。

(到達目標)

幅広い造形基礎能力を養い、成形実技、描写実習を通じて陶磁専攻独自の素材経験と基本技術の習得が出来る。

### 前期

1～3週 陶磁基礎 I 陶磁器を描く。陶磁器産地見学。(愛知県陶磁資料館・瀬戸蔵、ノリタケの森・瀬戸採土場、長曾古窯見学を予定)

4週 器の調査

5～6週 描写実習 東洋独自の描写道具である筆を使い、表現するための基礎を知り訓練する。

7～8週 自然を創る。(粘土による造形)

9～11週 工房実習 I 『石膏技法の基礎 1』

石膏ろくろ及び石膏成形技術を習得する。

12～15週 デザイン基礎 I 『石膏技法の基礎 2』

泥しょう鑄込み法及び石膏型成型法を習得する。

### 後期

17～21週 成形実技 I 『湯呑み茶碗に紅柄で描く』

ろくろ成形と紅柄による絵付けを習得する。

22～24週 立体造形の研究 首像を作る。

22～27週 基礎塑造 I 首像の二重型を取り、テラコッタとする。

28～31週 造形基礎 I 『つくりながら考える』土によるレリーフの成形。

※毎週月曜日午前(通年) 陶磁原料学 I 広く陶磁における原料、材料について総合的に学習する。

## ○陶磁実技 II

1年次に引き続き、陶器器制作における基本技術及び基礎造形・描写力のさらなる研鑽に加え、独創性、発想・構想力を鍛える。

(到達目標)

2年間の陶磁基礎教育により、創作に必要な制作技術力を身につけることができる。

### 前期

1～6週 造形基礎 II タイルデザインの基礎として鑄込成形技法を用い、ユニットの考え方を生かして平面レリーフを創作する。

7～9週 描写実習 「写生から文様へ」植物を筆と墨を使い描くことで、陶磁器加飾の基礎となる。(筆による描写) 筆使いを学ぶ。

- 10～12 週 工房実習Ⅱ ロクロ成形の基礎  
 10～15 週 成形実技（飯碗に鉄絵） 1年次で学んだロクロ成形基礎を発展させ、飯碗を創作する。また、ベンガラによる鉄絵を学ぶ。

#### 後期

- 17～21 週 デザイン基礎Ⅱ 「加飾」陶磁実技Ⅰで作成したシリンダーを50ヶ鑄込み、その表面で、呉須を用いて様々な加飾技法を経験する。  
 22～27 週 成形実技（磁器素地に染付け） 磁土を使い揃いの組皿を作ると共に呉須で絵付けを行いながら形と文様を研究する。  
 28～31 週 彫塑（トルソーの制作） トルソー制作に関する概説及び実技指導を行う。  
 ※（毎週月曜日／通年）陶磁原料学Ⅱ 原料学Ⅰに続き広く陶磁における原料、材料について総合的に学習する。

#### ○陶磁実技ⅢA・B（陶芸）

（授業の目的）

1・2年次の陶磁器の基礎に加え、より陶磁の専門的な技術と高い技術の習得を目指す。

（到達目標）

課題の持つ意味は一義的なものではなく、各自のやる気によって膨らませるものである。

よって授業の内容も陶器の成形・表現の研究のみならず、陶磁原料の研究、日本文化の研究、料理の研究、山野の植物スケッチ、美術館博物館の見学等、多岐にわたる。これらの事を習得し、創作に生かすことが出来るようになる。

#### 前期 陶磁実技ⅢA

- 1～3 週 「器」 工芸の基本である機能を持った形の中で、器は「食」という行為と結びつき多様な展開をしてきた。「使うこと」と「美しさ」を兼ね備えた気品ある器を、自分の手で組み食器として作る。  
 4～9 週 「大皿」 これまでのロクロ成形方法と違う、大物のロクロ成形の技法と絵付けを研究する。凹みのある丸い画面に、自然をモチーフとして描く。  
 10～15 週 「壺」 壺の形は人体に見立てて「口・肩・胴」と呼ばれている。単純に球としてではなく、造形的形態として把握すること。

上記、課題に際し、課題説明及び個人面談を行う。

#### 後期 陶磁実技ⅢB

- 17～21 週 「花器」 花を生けたときに空間・時間の中で調和し存在感を示すものを作る。同時に天然の原料の研究もする。  
 22～27 週 「装飾技法の研究」 アジアには、世界の他の地域には見られない、多くの優れた技法が存在している。それらの技法を研究して、各自の創作に生かす。灯油、薪の併用窯の焼成。

28～31 週 「注器」 「注ぐ」形には、その大きさ形態に様々なものがある。その造形としての形と機能を研究する。

上記、課題に際し、課題説明及び個人面談を行う。

#### ○陶磁実技ⅢA・B（セラミックデザイン）

（授業の目的）

計画から陶磁器制作までのデザインプロセスを学ぶ。陶磁素材を生かしたデザインの基礎を身につける。

（到達目標）

アイデア探求、アイデア展開、コンセプト設定ができる。モデル作成ができる。自らのデザインを伝達（プレゼンテーション）できる。

#### 前期 陶磁実技ⅢA

1～8 週 デザイン1 機械ロクロ成形技法を用いて食器を制作する。

9～15 週 デザイン2 圧力成形技法を用いて、レリーフタイルを制作する。  
その間、1週間外部講師を招き、シルクスクリーン技法を習得し、飾提案を行う。

#### 後期 陶磁実技ⅢB

17～22 週 デザイン3 ティーポットをデザイン制作する。  
複雑な型割り、鑄込み型の成型法を学ぶ。  
※デザイン専攻3年との共通課題。

23～31 週 デザイン基礎Ⅲ 選択課題  
①量産陶磁器工場への食器デザインの提案  
②クラフトデザインの提案

#### ○陶磁実技ⅣA・B（陶芸）

（授業の目的）

4年間の研究を自分の創作に生かし、集大成となる作品を制作する。

（到達目標）

個人で構想、成形、絵付け、釉薬、焼成すべてを自分で考え実行できる。

#### 前期 陶磁実技ⅣA

1～15 週 「形態と成形技法の研究」 形を粘土で形成するとき、陶磁として適切な形態と技法を研究する。  
指導教官の指導の許に、年間スケジュールを計画して行う。  
午前－器の研究  
午後－自由制作

今まで行ってきた土・形成・加飾・焼成の技法を総合することで、各自の制作の質を高めていく為に技法を研究する。

卒業制作につなげることも視野に入れる。その上で、卒業制作に向け、卒制エスキースの提出。

#### 後期 陶磁実技ⅣB

17～31 週 「卒業制作」 創作について各自で計画し、指導教官の指導を受け制作する。  
卒業制作に関して、各自のプレゼンを行う。(月 1 回程度)

#### ○陶磁実技ⅣA・B (セラミックデザイン)

(授業の目的)

陶磁実技Ⅳでは3年次までに学習した陶磁器デザイン表現を、より高度なレベルで追求する。創作においては生産計画性、公共性、社会性などの条件が加味される。

デザイン実技を通して個々の独創性を高めるだけでなく、デザイナーとしての適性を養う事を目標とする。

(到達目標)

3年次に習得したデザイン基礎を、各学生が独創性を持って表現に生かすことが出来る。

陶磁実技Ⅳは前期1課題と後期卒業制作で構成される。

#### 前期 陶磁実技ⅣA

1～15 週 ・陶磁デザイン基礎2  
学生ごとにテーマを設定し、表現技法研究を行う。

#### 後期 陶磁実技ⅣB

17～31 週 ・卒業制作  
創作について各自で計画し、指導教官の指導を受け制作する。  
卒業制作に関して、各自のプレゼンを行う。(月 1 回程度)

#### ○学外研究

(授業の目的)

中国の景德鎮ほか現地各地の歴史的跡や博物館、原料採掘現場などを訪ね、日本陶器に与えた影響を検証、調査する。また、中国における陶磁研究教育機関との交流を図る。

(到達目標)

日本陶磁の源流である中国陶器の歴史に現地で触れることで、陶磁文化・伝統技術に関する見識を深め、創作の基盤となるべき教養の幅を広げることができる。

隔年で上海・景德鎮・西安、北京を中心に訪れ、各地の美術館、博物館、研究機関(景德鎮陶磁学院、清華大学)において研修を行う。

学生各自が、教員との協議の上、調査テーマを決定し、帰国後に研修調査レポートを作成する。

### ○陶磁原料学Ⅲ

(授業の目的)

粘土、釉薬など原料から焼成まで、陶磁器の原理から応用までを理解する。

(到達目標)

自然の原料が、焼成によって陶磁器となる原理を科学的に理解する。

釉薬の成り立ちを理解して、自分なりの釉薬を作ることが出来るようになる。

創作における応用力と独創性を養うことが出来る。

授業は各自の研究テーマの進度に合わせて行う。

- ・ レクチャー：毎週 水曜日 開講
- ・ ゼーゲル式を使った釉薬の基礎実験

個人またはグループによるテストピースによる実験結果の分析、透明釉・鉄釉・色釉 / 乳濁釉、 マット釉等・焼成と釉の関係

### ○陶磁史 I A

(授業の目的)

日本陶磁史を学習する。

(到達目標)

作品と技法の編年を説明できるようになる。

日本の陶磁器の多様性を理解し創作に生かすことができる。

- |           |                |
|-----------|----------------|
| 1 陶磁資料館見学 | 9 山茶碗と猿投窯      |
| 2 縄文土器    | 10 常滑窯・渥美窯     |
| 3 弥生土器    | 11 信楽窯・越前窯・珠洲窯 |
| 4 土師器     | 12 瀬戸窯         |
| 5 埴輪      | 13 備前窯・丹波窯     |
| 6 須恵器 I   | 14 その他中世窯      |
| 7 須恵器 II  | 15 瀬戸・美濃大窯     |
| 8 三彩・緑釉陶器 |                |

○陶磁史 I B

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 1 茶陶 I (茶の湯とやきもの)          | 9 近世陶磁 V             |
| 2 茶陶 II (体験授業—喫茶と茶碗鑑賞)     | 10 近世陶磁 VI           |
| 3 茶陶 III (茶碗)              | 11 近代陶器 I            |
| 4 茶陶 IV (懐石の器)             | 12 近代陶磁              |
| 5 近世陶磁 I (近世窯業の展開)         | 13 近代陶磁              |
| 6 近世陶磁 II (肥前磁器と京焼諸窯)      | 14 現代陶器 I (陶芸の萌芽)    |
| 7 近世陶磁 III (江戸中・後期の瀬戸・美濃窯) | 15 近代陶磁 II (オブジェの誕生) |
| 8 近世陶磁 IV (東日本諸窯)          |                      |

○陶磁史 II

(授業の目的)

東洋の陶磁・中近東の陶磁を学習する。

(到達目標)

各地域と日本との差異を理解して、その理由を説明できるようになる。

陶磁器の地域における多様性を理解し創作に生かすことが出来る。

中国・朝鮮の陶磁と中近東の陶磁を、貿易を通じた交流の面から、お互いの影響をスライド等使い講義する。

○陶磁論 A、陶磁論 B

(授業の目的)

広く社会で活躍する陶芸家・デザイナー・美術／博物館学芸員などの陶磁分野の専門家のほか、異分野の研究者の講義を通じて、幅広い教養を養う。

(到達目標)

陶磁分野の現状や社会動向を知る。専門分野のエキスパートから話を聞く。

服部文孝／瀬戸市美術館学芸員、近代陶磁研究と現在の陶磁器産地瀬戸について

小林繁樹／国立民族博物館研究員、道具文化について

三杉隆敏／小原流参考館顧問、陶磁器の東西交流、海のシルクロードについて

長瀬美佐子／瑞浪市埋蔵文化センター研究員、美濃の焼き物について

藤沢良祐／愛知学院大学教授、中世の焼き物について

小松 誠／武蔵野美術大学教授、陶磁デザイナー、陶磁デザインについても考える。

宮脇伸歩／I N A X (株) 陶磁器デザイナー、企業における陶磁デザインについて

神谷幸男／陶磁デザイナー、美濃焼産地と陶磁デザインの現状について

久野利博／名古屋芸術大学教授、アーティスト、現代美術について

その他

## F Dに関する教員意見交換会資料

テーマ「基礎教育（カリキュラム編成）について」

専攻名：作曲専攻作曲コース

配布資料（全員）

テーマに関する専攻等の状況・工夫

当専攻の大きな特徴は、学生制作作品の音出しの場が数多く用意されていることである。基礎段階にある学生は、質の高い音出しの場が提供されることにより作曲の何たるかを感じ、意欲も向上する。音出しに際しては、曲目解説作成やプログラム・チラシの作成、ステージマネージメント等も学生が行い、音出し後には演奏者と作曲専攻教員を交えた講評会を開催し、作品制作だけではなくコンサートまでのトータルな指導を行っている。たとえば1年次の最初の提出作品（ピアノ独奏曲）は、オープンキャンパス時（7月下旬）に学内でのコンサートというかたちで一般公開され、全ての作品はピアノ専攻教員によって演奏される。演奏終了後に奏者・教員・学生を交えての講評会（非公開）を行っている。その他音出しの場として以下のものが用意され、カリキュラムともある程度の連動を図っている。「学内演奏会」、「室内楽の楽しみ」（長久手文化の家 森のホール）、「定期演奏会」（愛知県芸術文化劇場コンサートホール）、「作品演奏会」（電気文化会館ザ・コンサートホール）、「クラス試演会」（学内）等。

「基礎教育（カリキュラム編成）について」 作曲専攻音楽学コース  
FDに関する教員意見交換会用資料（参考／配布）

作曲専攻 音楽学コース

授業は以下に述べる音楽学の専門科目（音楽学研究）を中心に行われ、英語、ドイツ語、フランス語など外国語の修得も重視されている。

○音楽学研究Ⅰ（1年次必修）

前期：音楽学入門。音楽学とはどのような学問なのかを知り、研究に必要な文献や資料の検索方法を学ぶ。内容は、「音楽学」の歴史、さまざまな研究方法、文献・資料の使い方など。音楽学概説等の諸科目で習得する内容をさらに高度な理論研究へと進める基礎的能力を養うことを主目的としている。英語による文献講読も積極的に行う。

後期：音楽民族学入門。世界の音楽文化を民族学、人類学的視点で捉えて研究する手法を学ぶ。同関係の文献、視聴覚資料等そのために必要な情報、知識を習得させ、音楽民族学、ポピュラー音楽概論等の諸科目で習得する内容をさらに高度な理論研究へと進める能力を養うことを主目的としている。音楽民族学の基本的概念を日本語文献のみならず必要に応じて英語文献で学ぶことも想定し、できる限り視聴覚資料に多く接することを基本としている。

○音楽学研究Ⅱ（2年次必修）

前期：日本音楽研究入門。そのために必要な情報収集能力や関連知識等を習得させる。日本音楽史概説、日本音楽演習等の日本音楽関係の基礎教育および教職関連科目を修得後、伝統音楽から J-Pop まで日本の音楽文化をより広い視点からとらえ、考察できる能力を養い、「研究の基礎」を身につけることを目指している。また、時間的、能力的余裕がある場合、英語による日本音楽に関する文献講読も視野に入れている。

後期：作品研究の方法論。実際に音楽作品を研究する際に、どのような視点からのアプローチが可能であるのか、ということを経験するため、いくつかのテーマを設定し、それぞれについて、講義と論文の講読（英語文献も含む）、および学生による研究発表を行う。これらの授業によって、2年次までに「研究の基礎」を身につけ、3年次以降の卒論研究への下地を作っている。

○音楽学研究総合ゼミ： 全学年（博士前期・後期課程の学生も出席する）

学生と教員が同じ立場で発表し、意見を交換するオープンな場を目指して開設され、2008年度からカリキュラムに組み込まれている。内容は、音楽学コースの教員による研究発表、学生による研究発表、ゲスト・スピーカーによる研究発表等で、一般に公開する場合もある。

## FD 資料

テーマ＜基礎教育（カリキュラム編成）について＞

専攻：器楽 ピアノ

芸術大学では、基礎教育と専門分野研究とが連続的に発達することを前提として、いわゆる基礎教育として「専門的な研究のための基礎を形成する教育」がおこなわれており、実技レッスン形式に拠るため、その対応は個々で異なる。

基礎教育年次を1年次、2年次と見なし

1年次の試験にバッハと古典派、

（バッハ、前奏曲とフーガ（2曲）とハイドン或いはモーツァルトのソナタ）

2年次の試験に古典派とロマン派

（ベートーベンのソナタとロマン派の作品から）

を演奏することを課題に与えている。

指導方法：ピアノ実技はまず個人レッスンに重点を置き、試験課題を設定、様式と演奏法の基礎を修得する。

併せて、専門教育科目「伴奏法・歌曲 / 器楽曲」「合奏」により、アンサンブルの基礎、心得、読譜解釈などを学び、実際の経験を重ねて修得する。

工夫としては、理論講義よりもレッスン形式で実践を重ね、試演会等で経験を積むことを重視している。

## 基礎教育について、弦楽器コースの取り組み

弦楽器は鍵盤楽器などと違い、音程を自分でとる楽器であり、12平均律や純正律だけではなく、様々な音律にも対応することが出来ます。

そこで、1年生の室内楽の授業、初回に、12平均律と純正律の違いについて、また五度圏と八度圏の誤差、五度圏と三度圏の誤差について解説、弦楽器同士の室内楽では三度も純正にとる必要があることを説明します。その後4週間程度は、音程を正しくとるための課題(音階や、単純な四声体課題)を与えて、結合音(差音)を聞き取る訓練などしながら音程を正しくとるトレーニング、またアインザッツを合わせる等の基礎的な練習に充てています。

また、弦楽合奏の授業では、随時、楽曲分析や和声の話も取り入れ、和声法などの授業が実践に役立っていることを実感できるように考えています。

## FD 資料

テーマ＜基礎教育（カリキュラム編成）について＞

専攻：器楽 【管打楽器コース】

管打楽器コースでは、1年次に「管打学基礎Ⅰ」という本学独自の授業を設定している。この授業では、本学に入学し、まだ右も左もわからない新入生に、まず本学での4年間の過ごし方をイメージ出来るよう、また卒業後の明確な目標を早くから持たせるような指導を行う。そして、自分の専攻楽器以外の楽器についての知識を広げるとともに、呼吸法や演奏上の身体の使い方など、楽器を持つ以前から演奏への効率につながる部分についても学んでいく。最終的には自分たちで簡単な楽曲をアレンジし、実際に音を出して仕上げていくことが目的であるが、そのプロセスの中には専攻楽器の実力以外にもアンサンブルの能力やソルフェージュ力などさまざまな知識や経験が必要となってくる。

実際の指導上は、専攻楽器のレッスンでは時間的にあまり扱えないような、しかし管打楽器奏者として心得ておかなければならない細かい事柄について、カバーできるような心がけている。アレンジ→演奏仕上げのプロセスの中で、この授業の担当教員が気がついたり感じたりした学生個別の問題点は、専攻楽器の担当教員に伝えられ、個人レッスンでも生かせるよう教員同士のコミュニケーションも充実させるよう取り組んでいる。

## 五芸術大学 FD に関する教員意見交換会

1 日 時 平成 23 年 5 月 19 日 午後 3 時～午後 4 時 30 分

2 場 所 京都市立芸術大学 新研究棟 2 階大会議室

3 進行役 京都市立芸術大学 横田 学 美術学部教授

4 議 事

趣旨

芸術教育、実技教育を行う大学における FD とは何なのか理解を深めるため、また、学内でも他学部、他専攻ではどのような FD 活動に取り組んでいるのか見えない状況を鑑みて、五芸大の教員が集まる五芸祭の機会を活用して意見交換会を行い、以降の FD 活動に生かしていく。

愛知県立芸大の基礎教育（美術）の報告

油画

1、2 年の 2 年間で基礎的な教育を行う学年としている。受験用の絵画の勉強をしてきた学生に、基礎的、伝統的な技術を教え、出発点に立たせることが目的である。教員は、どのような授業を行うか事前に周知して、学生が自分で選ぶという選択制で、2 年間ですべての教員の授業を受けることができる。

学生への授業評価アンケートは各教員がそれぞれ作成しており、アンケート結果に対して回答をしている。それは他の教員も閲覧可能となっている。

日本画

大まかに言えば、1 年次は基礎教育を学ぶ時期だと考えている。

大学に入ってから初めて日本画の画材道具に触れるという学生がほとんどだと思われる。段階的な技術の習得を目標にカリキュラムを作成している。

京都市立芸術大学の基礎教育（美術）の報告

1 年次前期の実技は、専攻関係なくすべての学生が受講する総合基礎実技という授業を行なっている。月曜日から金曜日までの午後は全て総合基礎実技を行なっている。

各大学間での意見交換

○愛知県芸の油画 3 年、4 年のカリキュラムについて教えていただきたい。

2 年まで何をしてきたのか、3 年から何をしていくのかを知るために、チュートリアルを行っている。学生が、自分の希望制作内容に合わせて教員を選び、教員と相談しながら制作を進める。逆に自由に制作を進められる授業を、対策週間、卒業制作として位置づけている。

○京都市立芸術大学の総合基礎教育について

デザインとしての目線から見ると、総合基礎教育について専攻関係なく学ぶことにより他専攻の学生と知り合うことができ、自身の制作に大きな影響を得ることができる。逆に、基礎教育を 2 年間行うことにより、専門的教育の時間が減ってしまう。就職活動の時間も十分に取れない。

○愛知県立芸術大学では、他専攻のカリキュラム等に触れてみたいという意見を持った学生はい

ないのか。いた場合、どのような対応をとっているのか。

学部では専攻に分かれているが、大学院では1専攻で各領域にわかれているため、他領域のカリキュラムに触れるという学生もいる。

#### ○金沢美術工芸大学の取り組み

金沢美術工芸大学では、1年次に3週間、自専攻以外の授業を受けるという試みを行なっている。学生のアンケートからは、自専攻以外の事に目を向けることができる等好評である。問題は、メディアはどんどん変化していく中で、それらをどう組み込んでいくかが難しい。また、単位や他専攻学生の受け入れにおいて、問題を感じる。授業内容としては体験できるレベル、概論に近いものになっている。

京都市立芸術大学では、受験生から芸大生としての導入教育としての位置づけとして共通実技という科目を設けており、これは選択であるが他専攻の授業をうけられるようにしている。技術的な修得だけでなく、思考的、情報収集等も含め、大学生活を円滑に進められるように検討していくことが必要である。

#### ○東京藝術大学工芸科の基礎教育について

1、2年で行う陶芸基礎という授業で基礎的、導入的教育を行なっている。入学前に、自分の興味のある物の写真を撮ってくるよう宿題を出し、入学後に写真に関連する作品を作るという内容で行い、素材の体験をさせる、制作をするといった基礎的な事を学ばせる。

#### ○東京藝術大学声楽科における基礎教育について

今年度から在學生、卒業生、教員が交代で講義を行う基礎教育を行なっている。しかし音楽、特に器楽の実技においては基礎的な力は入学前に身につけておくべきものであり、また年齢も様々なかで一律して導入教育を行うことは難しい。

#### ○京都市立芸術大学音楽学部における導入教育について

器楽については、実技において導入教育を行わなければならないレベルの学生が入学してきてしまつては、音楽学部としてありえないと考える。個人レッスンが大前提であり、集団に対する導入教育は考えにくい。総合演習というオムニバス授業で一般教養を学ばせており、これを導入教育として考える。

#### ○沖縄県立芸術大学の取り組み

##### 美術

金沢美術工芸大学に似ており、造形基礎という授業を、1年前期を使い基礎教育を行なっている。後期から専攻の専門実技に移っていく。

##### 音楽

音楽の基礎教育としてはソルフェージュが当てはまるが、学生のレベルの低下が目立つ。ソルフェージュができないことだけでなく、基本的な読む、書く、話すができない学生に対する教育が初年次教育として必要になっている。

今回は急な呼びかけであったが、今後は事前に議題を決め、簡単なレジュメを交換するなどし、こうした場を活用しての意見交換会は続けていくべきであると考えている。